

## ミクロン単位で下顎運動を可視化

アルクスディグマIIはコンパクトで場所を選ばず使用でき、必要なデータを迅速かつ容易に測定します。補綴治療に求められる咬合器の調節値データをはじめ、的確な診断を支援する下顎運動の測定、表示、保存が行なえます。また、「顎口腔機能診断料」や「有床義歯咀嚼機能検査」などの保険算定にも対応しており、幅広いニーズにお応えします。

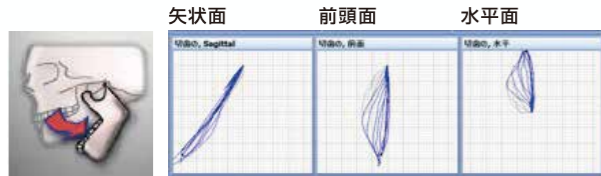


### KaVo アルクスディグマII 超音波デジタル顎運動測定装置

#### 基本機能

#### 三次元的に下顎運動を記録 Motion Analysis

咀嚼など下顎運動の計測・記録を行うことができます。



#### 咬頭嵌合位を咬合採得 Adduction Field

機能的な咬頭嵌合位を咬合器上に正確に再現。

#### 咬合面・舌面形態をコピー Articulator

口腔内の正確な下顎歯列の動きを咬合器上に再現。

#### 咬頭嵌合位の再評価 EPA (Electronic Position Analysis)

EPAを用いることで、プロビジョナルレストレーションとファイナルレストレーションにおける咬頭嵌合位の再現性を評価。



KaVo アルクスディグマII  
(販売名:アルクスディグマII 認証番号:222AIBZX00026000)

### アルクスディグマIIで算定可能な診療報酬項目

#### 1. 顎口腔機能診断料 2,300点

顎口腔機能診断料は、歯科矯正を開始するとき、動的処置を開始するとき、マルチブラケット法を開始するとき、顎離断等を開始するとき及び保定を開始するとき、それぞれ1回を限度として保険算定ができます。

アルクスディグマIIは  
顎口腔機能診断料に関する必要な施設基準  
①下顎運動検査  
②歯科矯正セファログラム  
③咀嚼筋筋電図検査  
上記のうち①と③が行える機器です。



#### 2. 顎運動関連検査(一装置につき一回)

顎運動関連検査は、下顎運動路描記法(MMG)、ゴシックアーチ描記法、若しくはパンとグラフ描記法により検査を行った場合又はチェックバイト検査を実施した場合に算定することができます。 380点

#### 3. 有床義歯咀嚼機能検査(1口腔につき)

1.下顎運動測定と咀嚼能力測定を併せて行う場合(1回につき) 480点  
2.咀嚼能力測定のみ行う場合(1回につき) 100点  
\*咀嚼能力測定には別途検査機器が必要となります。



## アルクスディグマIIの臨床応用

貞光歯科医院 院長 貞光 謙一郎

### はじめに

歯科医院を開業当初より、一口腔一単位を考慮しながら施術することを目標に、先人の先生方に学びながら治療をおこなってきた結果、良好な予後経過が認められるようになってきました。しかしながら、術者の経験値や技術が予後経過に大きな影響を与えるようになってきました。

包括的な治療を望む患者さんからは、大きな費用と時間をいただくこととなります。術者の経験値やカンに頼ることなく、少しでも多くの客観的な基準の元で治療を行いたいと考え、アルクスディグマ IIを臨床で応用しています。



2012年より臨床で使用し、現在、125人を超えるデータの採得を致しました。

### なぜ、アルクスディグマなのか?



様々な顎運動機能装置が存在しますが、顎運動だけを観察する装置が多い中で、アルクスディグマは採得したデータをそのままプロター咬合器にインプットでき、煩雑な咬合器の調節をする必要がありません。また、アジャスタブルインサイザルテーブルにデータを移行すると患者固有のアンテリアガイドランスの設定が可能となります。

将来的な展望としては、CTとの連携が考えられており、今からのデジタルデンティストリーの流れに合致した装置であると考えています。



### カボ デンタル システムズ ジャパン株式会社

本社 〒140-0001 東京都品川区北品川4-7-35 Tel.03-6866-7480 Fax.03-6866-7481  
札幌支店: Tel.011-716-4694 Fax.011-716-4692 仙台支店: Tel.022-772-7375 Fax.022-772-7376  
東京支店: Tel.03-6866-7480 Fax.03-6866-7481 名古屋支店: Tel.052-238-1146 Fax.052-238-1567  
大阪支店: Tel.06-7711-0450 Fax.06-7711-0451 福岡支店: Tel.092-441-4516 Fax.092-472-1844  
<http://www.kavo.jp>  
VECPBF1710V1 HT-061

※掲載されている写真にはオプションが搭載されている場合があります。  
※製品の仕様等は改良のため断りなく変更になる場合がございますのでご了承ください。



## 装置装着により本来の運動採得は難しいのでは?

装置を装着することより、患者固有の自然なデータとは言い難いかもしれません。しかしながら、歯科治療は様々な客観的なデータの積み重ねから診断をするものであると考えています。ディグマデータは客観的なデータとしては十分であり、当院の資料採得として必要不可欠なものになっています。

## 臨床ではどのように利用しますか?

包括的な治療を望まれる方には、資料採得にて顎運動の測定をするか聞くようにしております。大部分の患者さんが計測を望まれることから、データを確認しながら治療を進めています。

## では何を観察し、臨床を進めていくのか?

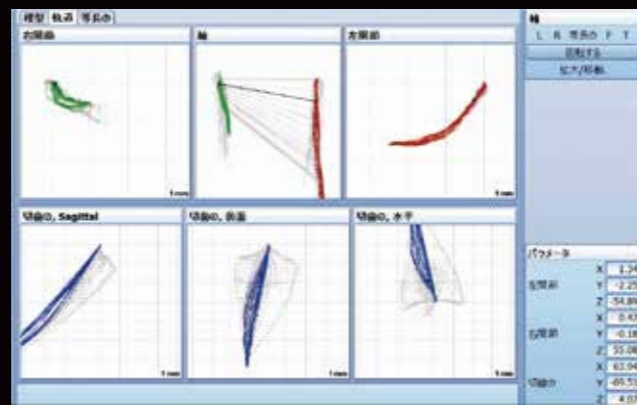
ディグマの場合、ファンクショナルデータ・咬合器データというデータ形式で、各個人データをプリントアウトすることが可能となっています。左右の対称性、開閉口運動の経路の確認を行います。また私たちは、顎機能に異常を認めない人、顎機能に異常を訴える人から採得したデータを級内相関係数にて分析を行った結果から、正常・異常像を把握し診断を行っています。

### 【First Impressions】

主訴：顎が痛む

開閉口運動：右側に変位  
疼痛：右側顎関節部 咬筋中央部

プロターevo7装着



### 【Examination & Diagnosis】

プロターevo7装着

咬合診断：CR≒ICP

早期接触部位確認

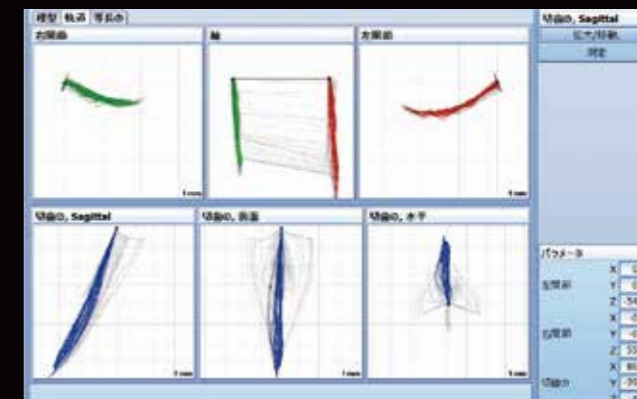


### 【Treatment】

疼痛・違和感改善

早期接触部位除去

開閉口運動：改善  
右側顎関節部：改善



## まとめ

次世代の歯科治療を考察すると、バーチャルの世界の中で咬合関係を観察することになるのでしょうか。また、その先駆けとしてアルクスディグマは存在すると考えています。日常臨床のなかで、できればディグマを使用せずに包括的治療が完遂できれば嬉しく思います。しかしながら、経験値だけではなく視覚的・数値的な基準が得られ安心して歯科治療を進めることができることから、使用してしまうのです。試行錯誤しながら臨床応用をはじめましたが、カボ社のスペシャリストの方々の的確なサポートや開発者のラング氏より、アドバイスをいただいたことで、今の臨床での活用があることに感謝しております。また、何よりも咀嚼・開閉口運動を実際に画像として確認できることにより、総合的な診断力が向上したと考えています。

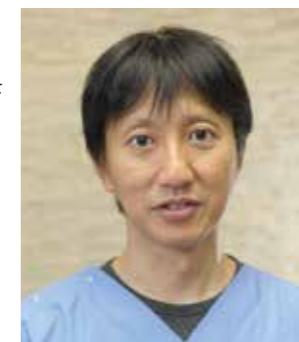
これからも臨床応用を継続していきたいと思っております。

## Customer Information



貞光 歯科医院

〒631-0014 奈良市学園朝日町2-3 貞光ビル1F  
TEL 0742-41-7000  
<http://www.sadamitu.jp/>



院長 貞光 謙一郎

1989年 朝日大学卒業  
1993年 朝日大学補綴学講座大学院卒業 歯学博士  
1998年 奈良市にて貞光歯科医院開院

日本顎咬合学会副理事長  
日本顎咬合学会指導医  
日本審美学会代議員  
日本審美学会認定医  
大阪SJCD相談役  
S.A.D.A 主宰